



1 学校経営目標

府中市立府中第一小学校は、第3次府中市学校教育プランの目指す人間像【人権感覚と規範意識】他者も自分も大切に、思いやりと規範意識のある人 【社会的な資質・能力】社会の一員としての自覚を持ち、社会に貢献しようとする人、【確かな学力】自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人を受けて、本校の教育環境と協力的で温かな地域、学区内の自然環境や文化的環境を十分に生かし、小学校教育の目的である日常生活に必要な基礎学力の定着と望ましい人間関係や自主及び自律の精神を育む教育活動を推進する。そして、府中版コミュニティ・スクールの機能を活用し、保護者・地域から信頼される学校づくりを教育活動推進テーマ「笑顔あふれるみんなの学校」、教育活動スローガン「認めて・ほめて・励まし・育てる」の下、進めていく。

2 学校経営目標を達成するための基本的な考え方

(1) 学校の教育目標

人権尊重の精神とともに、責任と協力を重んじ、適切な判断力と創造性に富んだ情操豊かで自主的健康な児童の育成を行うため、次の通り学校の目標とこれを踏まえて育成を目指す資質・能力を設定する。【 】内は目指す資質・能力。

- | | |
|-------------|------------------|
| ○よく考える子 | 【問題解決能力】 |
| ○なかよくたすけあう子 | 【協働して物事をやり抜く実践力】 |
| ○つよいからだの子 | 【心身ともに伸びやかな様子】 |
| ○心ゆたかな子 | 【人間関係形成力】 |

(2) 目指す学校像

学校の教育活動は子供たちのためにある。「それは子供たちの学びと育ちに必要か？」を第一の判断基準軸として教職員が一致協力し、教育課程を編成・実施していく。子供にとっても保護者にとっても、地域にとっても、所属職員にとっても信頼と誇りのもてる学校づくりを進める。二者間の「WIN-WIN」ではなく、「売り手（教職員）良し、買い手（子供・保護者）良し、世間（地域）良しの三方良し」を目指す。以下に、目指す学校像の姿、3点を示す。

- ①安全・安心・快適な学校～迅速・丁寧な対応～ ②所属職員が切磋琢磨し高め合う学校
③地域・保護者と連携協力する学校

3 中期的目標と今年度の重点及び方策

(1) 中期的目標

| | | |
|--|---|---|
| <p>①安全・安心・快適な学校 ～迅速・丁寧な対応～</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子供の心身のケアに教職員が一致団結して取り組む。 ●子供の人権が守られる学校環境づくりを推進する。 ●基本的生活習慣の育成及び定着を推進する。 ●危機管理を徹底する。 | <p>②所属職員が切磋琢磨し高め合う学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ●授業改善に取り組む教師 ●子供の気持ちに寄り添う指導 ●各主任を中心にしたチームとしての対応・情報の共有化 ●学年会や校務分掌を中心としたOJTの充実と学校の運営組織力向上 | <p>③地域・保護者と連携協力する学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学校と家庭と地域が協力して子供を育てる。 ●保護者・地域に学校の様子を伝えていく。 ●府中版コミュニティスクールの更なる発展を図る。 ●わかば鼓笛隊活動や地域防災会議の更なる充実を図る。 |
|--|---|---|

(2) 今年度の重点及び方策

① 安全・安心・快適な学校 ～迅速・丁寧な対応～

「目をかけ、声をかけ、心をかけて育てる」

- 子どもの人権が守られる学校環境づくりを推進する。
 - ◇安心して登校できる学級づくりを進める
 - ◇いじめ、登校渋り、不登校への適切な対応
 - ◇規範意識の育成及び定着
 - ◇服務事故防止の徹底（凡事徹底）
- ◎サポートルームの適切な運営
 - ～登校渋りが始まった際に速やかに管理職を含めて情報共有し学校・保護者と相談しながらその時点で最適な対応を取っていく。
- 基本的な生活習慣の育成及び定着を推進する。
 - ◇挨拶、廊下歩行、整理整頓、丁寧な清掃
 - ◇早寝、早起き、ノースクリーンデーの取組
- 危機管理を徹底する。～悪い情報（学校に危機的なこと）ほど早く管理職に伝わる組織。
 - ◇オン・ザ・フライ・ミーティングの活用 「とりあえず」「一報」「ちょっと気になることが・・・」
 - ◇報告、連絡、相談、記録（報連相記）を日常的に行う。毎週金曜日の生活指導夕会での情報共有。
 - ◇子供の情報の共有化（マイナス情報だけでなく、「イイね！」の共有。職員室での子供自慢。）

② 所属職員が切磋琢磨（自己研鑽⇄相互研鑽）し高め合う学校

【一小プライド】「愛と情熱、敬意と誠意」をもって職務に臨む

- 授業改善に取り組む教師
 - ◇学習指導要領に示されている主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
 - ◇体験的、課題解決的な学習の充実
 - ◇子供が主体的に選択/判断する教育活動の充実
- 府中市教育委員会より示されている義務教育9年間の系統的・継続的な取組により、特に重視して育成を目指す資質・能力「課題を発見し、課題解決に主体的に向き合い、自ら考えを形成するとともに他者と協働しながら合意形成を図り、よりよい自己を実現する力」を育成するために以下の4つの視点を教育活動に取り入れて実施していく。
 - 発見すること（意欲・好奇心・課題発見力等）
 - 対話すること（コミュニケーション力・多様性等）
 - 決定すること（自己調整力・批判的思考力等）
 - 表現すること（実行力・表現力・責任感等）
- ◎全教職員で6年生のリーダー性を伸ばしていく
 - ◇子供の自発性を尊重した意図的・計画的な年間を通したわかば鼓笛隊の指導・支援を音楽専科や高学年担任を中心に行う。
 - ・委員会・クラブでの指導・支援の充実
- 子供の気持ちに寄り添う指導
 - ◇心情的共感と客観的事実についての指導を行う。
 - ◇熱心な無理解者になっていないか常に自己の指導を振り返る。
- 各主任を中心にしたチームとしての対応・情報の共有化
 - ◇リーダーシップとフォロワーシップ 「チームのために自分は何ができるか」
 - ◇個人最適（独善的）ではなく、全体最適の視点で思考し行動する。
 - ◇ケア（気遣い、気働き）、同僚性の更なる醸成
- OJTの充実と学校の運営組織力向上
 - ◇学年会、専科会、学校運営組織がOJTであるという意識醸成。
 - ◇企画会での学年・専科主任育成とOJT研修会での個人の能力・資質育成と組織貢献力向上を図る。
 - ◇主任・副主任体制の良さを生かした分掌運営を常に改善しながら進めていく。
 - ◆ミドルリーダーの育成を主幹教諭・指導教諭が意図的・計画的に進めていく。
- 道徳の交換授業や教科単元の交換授業を計画・実施し、指導力向上や児童理解を深めていく手立てとする。

③地域・保護者と連携協力する学校

「売り手（教職員）良し、買い手（子供・保護者）良し、世間（地域）良しの三方良し」

- 学校と家庭と地域が協力して子供を育てる
 - ◇保護者会や学校行事、地域行事、スクールコミュニティ（SC）協議会。わかば鼓笛隊活動
- 保護者・地域に学校の様子を伝えていく
 - ◇学校便り、学年便り（学年の窓）、学級通信、ホームページによる啓発
 - ◇PTA本部会の活用、SC協議会、保護者会
 - ◎学校HPやスマート連絡帳の更なる活用
- 地域人材・資源活用 地域コーディネーターを中心に以下の活動を推進していく。
 - ◇学校支援ボランティア活動
 - 図書・外国語・安全パトロール・芝生・園芸などのボランティア活動に保護者を中心に参加していただき、地域・保護者から学校教育を支えていただく。
 - ◇地域防災会議
 - 今年度は、組織や備品の確認を行い。避難所開設訓練ができる状況であれば実施していく。
 - ◇持続可能な社会の創り手となる資質・能力を育む教育を地域人材や資源等を有効に活用して推進する。
 - ◎市制70周年に関する「未来へつなぐ府中2020レガシー」や「けやきタイム」の授業と関連して教育活動の充実を図る

④その他、第3次府中市学校教育プラン・教育施策等との関連

- 特別支援教育の充実
 - ◇専門性の向上。ICT機器を活用した授業改善。特別支援教室における指導の充実。関係機関との連携。
 - ◇レベル1, 2, 3を共通理解して指導・支援を組織的に進める。
 - ◇副籍交流の計画的な実施
- 「未来へつなぐ府中2020レガシー」の推進
 - ◇市制70周年を機にふるさと教育のさらなる充実、SDGs学習の継続・発展
- 英語教育の充実
 - ◇ALTの授業以外での効果的な活用の工夫を進める。
 - ◇授業、TGGや「世界とつながる英語Enjoy week」を関連付け、英語のコミュニケーションを図る機会の充実
- 教職員の働き方改革【ライフワークバランスの実現】
 - ◇出退勤の適切な管理。在校時間の目標明示 ◇超過勤務の著しい教員との月例面談
 - ◆退勤時刻を意識して逆算をする働き方を進める
 - ◇デジタル文書回覧や文書決裁を活用して会議減を図り、勤務時間内に個々が活用できる時間を増やす。
- 小中連携・一貫教育の推進
 - ・府中第一中学区における目指す子供像と育成・醸成すべき力を共有して9年間の「学び」と「育ち」の充実を図る。府中第一中学校での都教委研究指定校において講師講演会に参加するなどの連携や府中市防災の日に行う小中学校での一斉引き渡し訓練に向けた連携を進める。

4 今年度の数値目標：関係者評価（①児童・②保護者）と自己評価（③教員）

今年度より関係者評価の項目を吟味・精選し、同じ項目を子供・保護者の関係者評価、教員の自己評価で実施する。そのため項目・数値目標は検討中。12月に実施予定。